

米空軍嘉手納基地所属HH60ヘリコプター墜落事故に対する抗議決議

去る、8月5日午後4時ごろ、米軍キャンプ・ハンセン内の訓練場で、米空軍嘉手納基地所属のHH60ヘリコプター1機が訓練中に墜落炎上し全焼する事故が発生した。墜落現場は、住宅地までは約2キロで一步間違えれば住民を巻き込む大惨事となりかねない事故である。墜落直後に、石川署や宜野座村が現場への立ち入りを求めたが、米軍は明確な理由を示さないまま拒否した。日米両政府がMV-22オスプレイの追加配備を強行しようとしていることに対し、県民挙げて強い反対運動を行っているさなかのことである。

また、墜落した同機種部品には、放射性物質が使用されている可能性が指摘され、墜落現場近くには水源の一つとして利用されているダムがあり、住民の健康被害が懸念される。米軍は、調査中とのことで事故の詳細は公表していないが、住民の健康被害を優先に考え、速やかに公表すべきである。復帰後45件の墜落事故が発生しており、これまで事故発生たびに、原因究明と公表、再発防止策の徹底を訴えてきたが一向に改善されないまま事故が繰り返されている。今年5月にも沖縄本島の沖合でF15戦闘機の墜落事故が発生し、その原因も明らかにされないまま、今回の事故に強い憤りを覚える。

さらに、嘉手納基地の運用は、常駐機以外にもF-22戦闘機の暫定配備期間を延長する等、過密状態で危険である。このような状況で、今回墜落事故を起こしたHH60ヘリコプターは、われわれの頭上を低空飛行で飛び交い、激しい訓練を繰り返すことに、満身の怒りを持って断固抗議する。

よって、北谷町議会は町民の生命・財産、安全と平穏な生活を守る立場から、米軍及び関係当局に厳重に抗議するとともに、下記事項について速やかに実現するよう強く要求する。

記

- 1 事故の真相究明と、事故原因を速やかに公表すること。
- 2 安全対策及び再発防止策が講じられるまでの間、HH60ヘリコプターを全面飛行中止すること。

以上、決議する。

平成25年8月8日

沖縄県中頭郡北谷町議会

あて先

駐日米国大使 在日米軍司令官 在日米軍沖縄地域調整官 在沖米国総領事 嘉手納基地第18航空団司令官

米空軍嘉手納基地所属HH60ヘリコプター墜落事故に対する意見書

去る、8月5日午後4時ごろ、米軍キャンプ・ハンセン内の訓練場で、米空軍嘉手納基地所属のHH60ヘリコプター1機が訓練中に墜落炎上し全焼する事故が発生した。墜落現場は、住宅地までは約2キロで一步間違えれば住民を巻き込む大惨事となりかねない事故である。墜落直後に、石川署や宜野座村が現場への立ち入りを求めたが、米軍は明確な理由を示さないまま拒否した。日米両政府がMV-22オスプレイの追加配備を強行しようとしていることに対し、県民挙げて強い反対運動を行っているさなかのことである。

また、墜落した同機種部品には、放射性物質が使用されている可能性が指摘され、墜落現場近くには水源の一つとして利用されているダムがあり、住民の健康被害が懸念される。米軍は、調査中とのことで事故の詳細は公表していないが、住民の健康被害を優先に考え、速やかに公表すべきである。復帰後45件の墜落事故が発生しており、これまで事故発生たびに、原因究明と公表、再発防止策の徹底を訴えてきたが一向に改善されないまま事故が繰り返されている。今年5月にも沖縄本島の沖合でF15戦闘機の墜落事故が発生し、その原因も明らかにされないまま、今回の事故に強い憤りを覚える。

さらに、嘉手納基地の運用は、常駐機以外にもF-22戦闘機の暫定配備期間を延長する等、過密状態で危険である。このような状況で、今回墜落事故を起こしたHH60ヘリコプターは、われわれの頭上を低空飛行で飛び交い、激しい訓練を繰り返すことに、満身の怒りを持って断固抗議する。

よって、北谷町議会は町民の生命・財産、安全と平穏な生活を守る立場から、米軍及び関係当局に厳重に抗議するとともに、下記事項について速やかに実現するよう強く要請する。

記

- 1 事故の真相究明と、事故原因を速やかに公表すること。
- 2 安全対策及び再発防止策が講じられるまでの間、HH60ヘリコプターを全面飛行中止すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成25年8月8日

沖縄県中頭郡北谷町議会

あて先

内閣総理大臣 外務大臣 防衛大臣 外務省特命全権大使（沖縄担当）
沖縄及び北方対策担当大臣 沖縄防衛局長